

新任期の取り組みに向けた振り返りと展望

地域課題検討チーム：

28年度から30年度は、「高齢者の居場所づくり」と「認知症の人に優しい街づくり」の課題に取り組んだ。「高齢者の居場所づくり」では、各包括で地域の中で高齢者が集えるような場所を探して、データをまとめた冊子を作成し、市民に情報提供するためのツールとした。当チームが社会資源の一つとして使う以外に、通所型サービスBの参考資料とするため、市役所に情報提供も実施した。冊子の管理は各地域包括支援センターで行っている。

「認知症の人に優しい街づくり」では、市内各包括と介護保険課が年間計画を組み、認知症サポーター養成講座を実施する等している。今年度は、各包括に1名ずつ認知症地域支援推進員が配置されたので、推進員と認知症初期集中支援チームのメンバーと介護保険課認知症担当者が集まり、課題について会議をする体制が構築された。

チームとしての今後の予定は、各包括が実施している課題検討会議よりあがってきた課題一覧を再精査して決定したい。

在宅医療と介護の情報共有支援チーム：

あんしんノートの普及啓発を中心としながら活動した。あんしんノートを作成しても普及が進まない現状があり、ケアマネ・訪問看護・リハビリ協議会等で勉強会を開催し周知に努めた。市民周知の面では、ポスターやステッカーを作成し、平成30年7月26日開催の講演会にて、参加者へ配布を実施したので、今後も草の根的な周知を行っていききたい。

今後はあんしんノートだけでなく、ICTも含め、医療と介護の連携と情報共有の課題解決に向けて普及啓発と地域資源把握チームと力を合わせながら進めていきたい。

普及啓発と地域資源把握チーム：

当チームの活動は、在宅医療と介護の普及啓発を目的とした「市民向け講演会」、在宅医療介護連携の推進を目的とした「多職種連携研修会」の実施となった。

今後の課題として、市民向け講演会については、1つのテーマのシリーズ化や集まり方の検討、多職種連携研修では、同じ事業所の参加が多いので、周知や内容の検討が必要であると考えている。地域資源の把握では、情報誌の作成を検討していたが、座間市地域在宅医療介護連携支援室が設置されたので、支援室と連携をしつつ、今後について検討を進めていく予定である。

また、市民向け講演会や多職種連携研修会にも関連するが、「高齢者見守りネットワーク」を座間

市地域ケア会議及び在宅医療推進協議会でも推進していくため話し合いを重ねていきたい。

事務局より：

平成 29 年度までは 3 チームに分れて親会議・子会議を開催していたが、平成 30 年度からは 2 チーム編成とし、親会議は 3 か月毎の開催となる。子会議は地域ケア会議チームと在宅医療と介護連携チームに分かれる。

地域ケア会議チームは、各包括の実施する個別ケア会議や地域課題検討会議からあがってきた課題を市の政策で解決するのか、またはライフポート協議体へ情報連携し、解決を目指すのか等を議論してほしい。

在宅医療と介護連携チームは、国が示した在宅医療・介護連携推進事業（ア）～（ク）に基づき座間市の実状に則した議論をしてほしい。「あんしんノート」・「入院時情報提供書」が着々と進んでいる事に加え、ICT 関連の会議を立ち上げる予定でもある。

地域在宅医療介護連携支援室（平成 30 年度設置）に関しては、今後方向性を加味し在宅医療と介護連携チームと共に動くことが多くなると思われるので協力をお願いする。

来月の開催より、子会議委員としては大きく 2 チームに分かれるが、検討課題の内容により随時、相互チームの議論へ出席するなど、柔軟な対応を依頼する。

以上